

体育会略年表

明治4年(1871年)

3月16日 三田山上に移転完了。在学学生323名。体育奨励の方法として運動場を設け、ブランコ、シーソー、鉄棒等を設置した。

明治5、6年ごろ市中より馬を借り来たりて草郷清四郎等を師として馬術を練習した。

明治10年(1877)

- このころ、和田塾生、柔術の稽古を開始。

明治11年(1878)

- 剣術の稽古はじまる。

明治14年(1881)

1月 このころ、幼稚園課業中に体操、柔術を加う。

明治17年(1884)

- アメリカ人ストマーより塾生はじめて野球の指導を受く。

明治19年(1886)

6月6日 三田山上で、はじめて陸上運動会を開催。

明治20年(1887)

- 塾生有志、講道館柔道を開始。
- 水泳倶楽部設立、水泳部の前身。

明治21年(1888)

春 三田ベースボール倶楽部組織。

明治22年(1889)

4月 端艇倶楽部設立(7月12日、創立趣意と規則を印刷頒布)。

明治25年(1892)

5月15日 体育会創設。全塾生の健全なる身体を発育をめざして設けられる。剣術、柔術、野球、端艇の各部を集合統一し、新たに弓術、操練(兵式体操)、徒歩の各部を置き、創設にあたって千円を出資、学生よりは月10銭を徴収した。会長、福澤捨次郎。

- 柔道場(40畳敷)三田山上に竣工。
- この年より体育会による春秋運動会の開催。

10月16日 初の水上運動会を田町9丁目先、袖ヶ浦において開催。

明治28年(1895)

- このころ、徒歩部廃絶。
- 弓道場、西門坂上に移築。

明治29年(1896)

9月 幼稚園の柔術を鐘巻流より講道館柔道に改む。

明治31年(1898)

- 3月 端艇部艇庫、芝浦製作所構内に竣工(30年11月着工)。
- 12月 兵式体操用銃器室竣工(演説館と剣道部および柔道部道場の間)。
- この年ごろ、塾旗として三色旗制定。
- 大塚千代造、クラスの者とテニスを催す。

明治32年(1899)

- この年、柔道部道場を増築。
- 秋 この年、教員クラークの指導により日本ではじめてのラグビー競技行なわる(34年12月7日、横浜の外国人と日本初の試合を行なう)。
- このころ、体育会操練部廃止(生徒隊に吸収)。

明治34年(1901)

- 2月3日 福澤先生、この日午後10時50分逝去。66才1ヵ月。
- 3月7日 外国人のボクシングをはじめて塾生に紹介。
- 10月 庭球部、体育会加入。部長、雨山達也(清遊ローンテニス倶楽部、三田ローンテニスクラブ、ABCクラブ、窮狸窟クラブ等を統合して、体育会加入)。

明治35年(1902)

- 5月25日 水上運動会(端艇競漕大会)、従来は芝浦で開催していたが、この年より隅田川に移る。
- 8月 水泳部、体育会加入。部長、赤羽俊良(水泳部の本格的な発足はこの年7月12日より約1ヵ月間、葉山にて第1回水泳練習会を開いた時からとす)。
- 10月 器械体操クラブ生まれる。

明治36年(1903)

- 3月 自転車部、このころ体育会加入(塾生、教職員、塾生有志により35年3月3日「自転車倶楽部」発会。そのうち、塾生会員のみが体育会に加入)。

部長、宮森麻太郎。他の会員は36年3月8日「三田輪友倶楽部」設立。体育会自転車部は1年ならずして廃止)。

秋 蹴球部、体育会加入。部長、クラーク。(32年秋創立)

12月5日 器械体操部、体育会加入。部長、板倉卓造(35年10月創立)

29日 運動場用地として芝三田綱町の蜂須賀家所有地およそ3900坪購入。

明治37年(1904)

2月29日 寄宿舎中庭の進取園にて、横綱常陸山を招き土俵開きを行なう。

9月 綱町運動場に柔道部、剣道部、弓術部の道場、兵器室および器械体操部練習場等竣工。

秋 この年より、陸上運動会は三田山上より綱町運動場に移る。

明治38年(1905)

7月11日 運動専門雑誌「体育界」、体育会幹事中の有志により創刊。

秋 綱町運動場に蹴球部控所竣工。

明治39年(1906)

- 5月15日 向島に艇庫敷地購入を可決。
- 10月28日 早慶第8回野球試合にて、はじめて応援歌「天は晴れたり」をうたう。
- 11月13日 早慶野球試合に関し第3回学生会大会(第1回は10月28日、第2回は11月1日)を開く(両校の応援白熱し危険を伴うおそれがあるため、11月11日の決勝戦を中止、以後、大正14年秋まで行われず)。

” 中旬 イギリス人牧師 W. T. グレー来塾し、はじめてホッケーの技術を説明(11月23日、ホッケークラブ創設)。

明治40年(1907)

4月21日 慶應義塾創立50年記念式典挙行。半月余にわたり記念行事が催され、25~27日は体育大会、柔道大会は25日、続いて野球大会。

10月27日 ハワイ、セントルイス・カレッジ野球団、義塾の招聘により来日(はじめて外国チームを招待、31日より11月18日まで5回にわたり対戦、2勝3敗。わが国初の有料試合)。

明治41年(1908)

6月29日 ハワイ、セントルイス野球団の招きに応じ野球部ハワイ遠征、9月11日帰国(初の海外遠征)。

10月 岳窓会(山岳研究会)発会、機関紙「唄」を発行。会長、川合貞一。
秋 柔道部後援会設立。その後大正15年の総会で「三田柔友会」と改める。

明治42年(1909)

11月11日 ラ式蹴球渡来10年記念出版「ラグビー式フットボール」蹴球部編。

明治43年(1910)

- 体育会直轄の徒歩部創立(部として独立したものではない)。

明治44年(1911)

4月6日 第三高等学校との蹴球試合(ラグビー)を綱町グラウンドにて行なう。日本最初の蹴球対校試合。
7月7日 「柔道部々報」発行(年3回、即ち毎学期1回とす)。
10月29日 三田、稲門クラブ野球試合、白瀬中尉の南極探検隊に寄付のため、日本人チームの試合としてはじめて入場料を徴収。

明治45年(1912)

2月10日 相撲倶楽部、新たに稲荷山に土俵を築き、横綱常陸山を招いて土俵開きを行なう。
6月1日 「慶應義塾体育会雑誌」創刊、年3回発行(一時中絶し、大正14年2月、「体育会雑誌」として再刊。同年6月、2巻を刊行して、以後、年1回刊行されたが、再び中絶。昭和7年からは、「慶應義塾体育会年鑑」あるいは「体育会誌」として刊行。同16年以降用紙の配給なく発行不能。昭和25年7月「体育会誌」再刊1号を復刊)。
8月 水泳部員、葉山合宿中にセーリングボートを浮かべ、日本ヨット界のさきがけをなす。

大正2年(1913年)

2月19日 庭球部、硬式採用を決定。

大正3年(1914年)

1月3日 庭球部、マニラカーニバル祭の東洋選手権大会に野村祐一、市川重二、熊谷一弥、三峯進の4選手を送る。
○ 艇庫および棧橋、向島に竣工。

大正4年(1915)

5月 山岳会創立。
7月25日 水泳部葉山寄宿舎新築祝賀会開催。神奈川県三浦郡葉山町堀内字五

ッ合に竣工、木造平屋建156坪、収容人員120名。敷地は借地(15年、65坪余増築。借地も追加)。昭和35年10月1日、千代田生命保険相互会社に売却。

大正6年(1917)

5、6月ごろ 競走部、体育会加入。部長、小泉信三(6月20日、第1回試走会。創立は明治43年、体育会に徒歩部世話係を置いた時)。
9月 広尾に寄宿舎竣工。三田山上の旧寄宿舎の一部にあった体育会本部はピッカース・ホールに移る。

大正7年(1918)

9月30日 剣道部道場の大改築竣工。4月より普通部3年以上に剣道を正課とし、幼稚舎6年にも剣道の基本教練を課すこととなり、従来の道場では手狭となる(10月27日落成式)。
11月19日 綱町運動場隣接の蜂須賀家所有地437坪購入。

大正8年(1919)

5月 相撲部、体育会加入。部長、生江惣太郎(6月4日、栃木山、大錦を招き綱町の新土俵開き。11月15日、第1回相撲大会。福澤の在世中、寄宿舎内に相撲協会が組織されたが、一時衰え、明治36年ごろ、同じく寄宿舎に改めて相撲倶楽部結成。さらに同44年ごろ平沼亮三を部長として再興)。
9月22日 山岳部、体育会加入(8年7月11日、年報「登高行」創刊、部長は9年4月より松本信広)。
12月 ホッケー部、体育会加入(9年2月、及川恒忠、部長就任)。
○ 三田軟式庭球クラブ設立。

大正9年(1920)

7月16日 幼稚舎野球選手、時事新報社主催の東京市内小学校野球試合に参加、優勝(8月2日、大阪に赴き全国少年野球決勝試合に出場、13日帰京)。
8月15日 第7回オリンピック大会(アントワープ)、熊谷一弥(テニス)、○益田弘(陸上)出場。〔(註)○印は学生〕

大正10年(1921)

- ブルー・サッカー倶楽部創立(慶應アソシエーション・フットボール倶楽部と改称)。

大正11年(1922)

9月21日 馬術部、体育会加入。部長、河辺治六(9年4月、乗馬会設立。14年11月、三田乗馬倶楽部が解散し、会員は馬術部に入部)。
○ ゴルフ倶楽部誕生。会長、横智雄。

大正12年(1923)

1月 山岳部員有志が、慶應スケート・アソシエーションを組織。
7月 庭球部コート大森に移り5面完成(12月16日、コート開きを行なう。それまでは四谷に4面)。

大正13年(1924)

2月11日 ラ式蹴球25年祭、綱町にて開催。
3月18日 運動場用地として府下荏原郡矢口村の土地(新田運動場)14250坪余購入承認(年内にほぼ登記完了、15年6月、開場式)。
7月5日 第8回オリンピック大会(パリ)、○原田武一(テニス)、○益田弘(陸上)出場。〔(註)○印は学生〕
9月 野球部ホームグラウンドを田園調布球場に移し、大岡山に合宿所を設ける。
○ バスケットボール愛好者が慶應義塾籠球倶楽部創立。
○ 慶應義塾射撃会創立。
10月15日 慶應義塾唐手研究会創立。師範、富名腰義珍。

大正14年(1925)

2月1日 「体育会雑誌」再刊。
9月16日 ホッケー部、新田グラウンド新設(練習開始)。10月25日、創立20周年記念大会を同グラウンドで開催。
秋 三田スキー倶楽部を組織(大正6年1月、山岳会員がアルペン・スキーを練習したことにはじまる)。
10月1日 慶應義塾拳闘倶楽部発会式。
12月22日 ラグビー蹴球部としてはわが国最初の海外(上海)遠征を行なう。(部長・畑功、増田、真島両先輩、選手18名)

大正15年(1926)

6月8日 新田運動場開場式、蹴球部、競走部共同主催にて開催(8月25日には野球場および同観覧席竣工。鉄骨造り、観覧席の建坪1040坪、収容人員15000人)。昭和9年以降、日吉の運動場整備に伴い、同11年ごろより漸次売却。

体育会略年表

7月8日 水泳部葉山寄宿舎増築工事竣工。
木造平屋建56坪余(昭和35年10月、
全施設売却)。
8月28日 フィリピン、フォードミル野球団
を迎え、林毅陸塾長の始球式で、新
田球場開き挙行。
9月20日 千葉県船形町に看護婦保養所竣
工(昭和37年1月売却)。

10月 運動場用地として山中湖畔(山梨
県南都留郡中野村字平野地内)の土
地約2万坪を富士山麓土地会社社長
堀内良平および同地有志より寄付、
その後、数度にわたって土地を買い
入れ、現在(昭和50年)の総坪数は
27317坪。
11月3日 福澤捨次郎、初代体育会々長逝去。
61才。

昭和2年(1927)

3月 野球部合宿所竣工(木造2階建、延
168坪)。総工費19100円余のうち、
11900円は三田倶楽部の寄付による。
4月19日 ソッカー部、体育会加入。部長、
島原逸三。
〃 スケート部、体育会加入。部長、
園乾治。

7月25日 剣道部機関誌「つるぎ」創刊(36年
12月20日、創刊号より第12号までの
合本を第12号として刊行)。

秋 この年より、陸上運動会を新田野
球場で開催。

〇 綱町旧蹴球部控所を改造して、唐
手研究会練習場とする。

11月 「庭球部報」創刊(年1冊から3冊
刊行し、13年6月30日、創刊号より
12年秋季号通巻20号までの合本「吾
等の10年」刊行)。

昭和3年(1928)

7月23日 山中山荘開場記念茶話会開催。各
競技場および宿舎の一部が完成し、
地元の関係者も招く。完成後の宿舎
は木造重鉛葺2階建、延164坪、収容
人員約80名(2年夏にはすでに仮運
動場および天幕宿舎を設け、蹴球部、
弓術部の選手が合宿練習を行なう。
また、同年9月上旬には浴場、艇庫
および井戸完成)。

28日 第9回オリンピック大会(アムス
テルダム)、三木義雄、○津田晴一郎
(陸上)、○野田一雄(水泳)出場。
〔(註)○は印は学生〕

秋 野球部、東京6大学リーグ戦に完
全優勝(10戦10勝)を記念してスト
ッキングに白線1本を加う。

昭和4年(1929)

4月15日 創立5周年を記念して「唐手」を
「空手」と改称。

12月10日 「馬術部部報」、創立10周年記念と
して刊行。

昭和5年(1930)

2月8日 神奈川県橋樹郡日吉村の土地、
119799坪義塾所有となり、同時に隣
接の土地17100坪余借用。

4月1日 体育会に塾内対抗競技部新設。体
育会各部に所属しない一般学生に、
塾内の各種スポーツに参加するため
に設置。部長、浅井清。

3日 端艇部、向島の新艇庫移築工事竣
工(4月20日落成式)。

30日 綱町プール竣工。総タイル張り、
長さ25m、幅13m(6月15日、開場式
ならびに塾内水泳大会開催)。

5月1日 山中山荘の水源地1050坪購入。

11月19日 ホッケー部創立25周年記念大会
を新田グラウンドで挙行。

〇 航空研究会誕生。

昭和6年(1931)

1月 籠球部、体育会加入。部長、フィ
ッシャー。

〇 モーター研究会および医学部モー
ター研究会発足。

11月22日 「慶應庭球30年」刊行。

〇 慶應義塾排球倶楽部発足。

昭和7年(1932)

5月9日 慶應義塾創立75年記念式典挙行
(翌10日は学生生徒祝賀式およびカ
ンテラ行列挙行。この日より1週間
を記念週間として講演会、展覧会、
運動会等の催しを行なう)。

7月30日 第10回オリンピック大会(ロスア
ンゼルス)。役員、選手28名参加。平
沼亮三(団長)、佐藤武雄(本部役
員)、三木義雄、小山濠一(陸上役
員)、○津田晴一郎、○北本正路、○
竹中正一郎、○小野操、○阿武巖夫
(陸上)、野田一雄(水上役員)、○河
石達吾(水泳)、○沢海東助、○木村
清兵衛(水球)、綾井富吉(ボート役
員)、○南波正吉、○高橋六郎、○柴
田梅太郎、○伴紀雄、○鈴木大吉、
○村山又芳、○河野四郎(ボート)、
石川輝(ボクシング役員)、浅川増
幸、○浜田駿吉、○中村栄一(ホッケー)、
なお、宮田勝善、清水治も視察
員として参加した。

また、レーク・プラシット冬季大
会に○帯谷竜一(スケート・フィギュ
ア)出場。〔(註)○印は学生〕

10月15日 空手部、体育会加入。部長、粕谷
真洋、昭和5年4月、塾内対抗競技
部が設けられた際、最初の新種目団
体となって、会名を更に空手会と改
む。)

11月27日 義塾水泳部および卒業生の組織
する三田ヨット倶楽部が中心となり、
日本ヨット協会設立。

12月17日 ホッケー部、優勝記念として部長
及川恒忠、監督 山崎愛介 以下選手
17名、ホッケー競技としては初の上
海遠征を行なう。

25日 器械体操部編「器械体操部30年
史」刊行。

昭和8年(1933)

9月15日 三田柔友会より「慶應義塾柔道部
史」刊行。

昭和9年(1934)

4月22日 日吉第1校舎竣工(22日入学式、
5月1日授業開始)。

5月23日 日吉競技場(甲種公認)開場式な
らびに庭球コート開き(Aコートは
8年完成)。

〇 水泳部合宿所、綱町内海邸内に開
設。

10月23日 スキー部、体育会加入。部長、潮
田江次

11月5日 三田レスリング倶楽部創立。

11日 サッカーおよびホッケー練習場
(現普通部敷地)開場式挙行。

12月2日 日吉弓道場、道場開きを行なう。

昭和10年(1935)

1月 アメリカン・フットボール倶楽部
発足。

3月15日 山中山荘隣接地900坪余購入。

6月7日 ホッケー部創立30周年記念大会
を新田ホッケー場にて開催、また、
「ホッケー30年」刊行。

23日 ブタペスト大学300年祭記念国際
学生体操競技大会の日本代表に推さ
れた塾器械体操部は、参加6か国中、
ハンガリーについて第2位に入賞し
た(競技は8月10日から)。

10月17日 体育会日吉事務所落成式および
柔剣道場開き挙行。体育会事務所は
広尾寄舎の第1寮を移築したもの
で、木造2階建、延167坪。柔剣道場
は木造平屋建160坪、浴場は木造2
階建75坪(柔剣道場および浴場は15

年4月焼失、翌年再建)。

昭和11年(1936)

7月 山中山荘開荘10年を記念して、明治24年建造の三田の3号館(木造2階建延260坪)を山中山荘に移築した。

8月 第11回オリンピック大会(ベルリン)、役員、選手28名参加。平沼亮三(団長)、浅野均一、○平沼五郎(本部役員)、○鈴木聞多、○今井慶二、○大江季雄、今井哲夫(陸上)、根来幸成、原秀夫(水上役員)、○宮崎康二、○児島泰彦、○小池礼三○寺田登(水泳)○和田幸一、○高橋三郎(水球)、石川周策(ホッケー役員)、○柳武彦、○上野安夫、○伊藤通弘、浜田駿吉(ホッケー)○右近徳太郎(サッカー)、○野坂浩(体操)、吉本祐一(ヨット役員)、財部実(ヨット)。

また、ガルミッシュ・バルテンキルヘンの冬季大会に○長谷川次男、○渡辺善次郎(フィギュア)、藤野正彦、○亀井信吉、○古屋健一(アイス・ホッケー)出場。〔註〕○印は学生]

10月 慶應フェンシング・クラブ創立。
○ 器械体操部、創立30周年記念大会開催。

11月30日 新田野球部鉄骨スタンド売却。

昭和12年(1937)

4月 卓球クラブ練習場竣工。木造平屋建68.5坪(田巻恒彦の寄付)。

9月 艇庫用地として、多摩川畔、蒲田區古市町に763坪購入。

〃 喰谷にボクシングクラブ練習場、相撲、空手道場竣工。

9月10日 ハンドボール・チーム誕生。

11月 卓球部、体育会加入。部長、奥井復太郎

昭和13年(1938)

1月24日 ヨット部、体育会加入。部長、藤林敬三(大正初期より水泳部内にてヨット技術の習得にはげむが、昭和7年8月、水泳部主催の日本人によるわが国初のヨットレースが葉山で開催され、これを機にヨット部誕生の発端をみる。11年春、慶應ヨット・クラブとして水泳部より独立)。

3月18日 外務省派遣、独伊訪問親善学生武道使節に選ばれた羽鳥輝久(柔道)、太田茂(剣道)がこの日、神戸出帆。

9月20日 運動場用地として、横浜市下田の土地19800坪購入。

昭和14年(1939)

6月17日 藤原工業大学開校式挙行。

11月1日 平沼亮三先輩還暦祝賀式を日吉競技場において、普通部、商工学校部員を含む体育会全部員700名参列のもとに行なう(初の体育会パレード)。

28日 体育会戦没先輩(16柱)の慰霊祭を、大ホールに於て挙行。

昭和15年(1940)

4月19日 日吉柔剣道場および浴場失火により焼失(16年6月再建)。

5月19日 多摩川艇庫新築落成式を兼ね、第37回水上運動会挙行。蒲田區古市町に艇庫移築および増築工事、ほぼ完成、木造平屋建約220坪、端艇部先輩は新艇庫建設後援会を結成して、15350円を醸出し、10数隻の舟艇建造、戦時中も学生の練成機関として活用されたが、戦災のため舟艇もろとも焼失し、やがて用地も売却。

8月27日 艇庫用地として、埼玉県北足立郡戸田村(戸田競漕コース)に720坪購入。

秋 横浜市下田に野球場、ラグビー場新設。

昭和16年(1941)

1月10日 新塾歌制定発表。作詞 富田正文、作曲 信時潔。

21日 排球部、体育会加入。部長、小池隆一。

〃 射撃部、体育会加入。部長、奥井復太郎(大正13年創立、昭和4年復活、18年停止)。

31日 体育会部員心得発表。15年10月14日、塾長、塾生に「居常心得」を訓示。これに基き、体育会部員心得を作成し、大ホールに体育会部員を集め、発表した。

3月14日 日吉ホッケー場およびサッカー場竣工。ホッケー部創立35周年記念大会を新ホッケー場において挙行。

4月 日吉乗馬クラブ(地主12人)より、馬場および厩舎敷地1100坪を借地、さらに隣接地200坪を借地して整備を行ない、17年、完成とともに新馬場に移る。

6月 日吉柔剣道場再建(木造平屋建160坪)。

7月13日 他府県での合宿、試合は禁止され

た(全国的大会は明治神宮大会のみ)。

10月20日 体育会寄宿舎竣工。合宿棟木造2階建2棟、延308坪、および食堂棟、木造平屋建144坪(総工費149,346円の半分は三田倶楽部、黒黄会の寄付)。

昭和17年(1942)

10月下旬 報国団結成。大学および高等部の教職員、学生にて組織し、在来の学会、体育会、文化団体を吸収して、総務部、学術科、体育科、生活科に分つ。学生はすべて学術科と体育科の国防訓練班に属し、これまで納入していた学会費、体育会費のかわりに報国団費20円を納めさす。団長、小泉信三。

〃 バドミントン・クラブ誕生。文化団体連盟に加入。

○ 器械体操部、創立40周年記念大会開催。

○ フェンシング協会の解散とともに、慶應フェンシング・クラブも運命をともにした。

昭和18年(1943)

4月25日 文部省の「戦時学徒体育訓練実施要綱」により、体育会各部対抗行軍(三田一日吉往復30km、5人1組)を行なったところ国防競技から抹殺された庭球部(隅丸次郎、岡田信三、岡田収、原裕、鍵富春男)、野球部が2'28"5"、2'31"28"で1位、2位を占めた(競走部は10分遅れてスタートし、第5位)。

10月16日 出陣学徒壮行早慶野球試合を早大戸塚球場にて挙行。

11月19日 日吉競技場に全予科生を集めて、出陣学徒500名の壮行会挙行。

20日 第2回体育会戦没先輩慰霊祭を大ホールにおいて、平岡好道師司祭のもとに挙行。

23日 塾生出陣壮行会を三田山上にて挙行。式後、福澤の墓に詣ず。

12月1日 第1回学徒出陣。

○ 射撃部廃部。

○ スポーツ団体衰退し、対校競技はほとんど行なわれず。

昭和19年(1944)

2月1日 水泳部葉山寄宿舎、第2海軍航空廠に貸与。

3月10日 日吉校舎、海軍軍令部、連合艦隊本部に貸与。

体育会略年表

25日 山中山荘、横須賀海軍施設部に貸与。

4月18日 獣医畜産専門学校開設、野球、サッカー、ホッケー、ラグビー場などの体育施設は農場となる。

昭和20年(1945)

4月16日 体育会日吉事務所、空襲により炎上。

5月26日 ビッカース・ホール(体育会本部)、空襲を受け焼失。

下旬 多摩川艇庫、空襲を受け舟艇もろとも全焼。

9月8日 アメリカ軍により、日吉構内の施設接収さる。体育会関係は柔剣道道場、弓道場、空手、ボクシング、相撲場、庭球部更衣室、卓球場、競技場および附属物置等。

11月6日 「終戦に伴う体練科教授要項および武道の取扱いに関する件」通牒により、剣道、柔道、弓術、薙刀の授業中止。特に剣道に対しては「超国家思想と軍国主義の鼓吹に利用され、軍事訓練の一部として重んぜられた」と風当たりが強かった。

18日 戦後初の全早慶野球試合が行なわれる(21年5月19日、東京6大学野球復活)

昭和21年(1946)

4月1日 女子の大学入学許可。

〃 レスリング部、体育会加入。部長、永沢邦男。

4月 ボクシング部、体育会加入。部長、気賀健三。

〃 アメリカン・フットボール部、体育会加入。部長、小島栄次。

6月1日 体育会の復活を常議員会(この日、協議会と改称)にて承認。

9月 接収中の葉山寄宿舍および山中山荘返還さる。

昭和22年(1947)

6月 ハンドボール部、体育会加入。部長、山本登。

昭和23年(1948)

3月 体育会本部仮建策(木造平屋建20坪)竣工。

4月 日吉体育会寄宿舍大改修。

5月 綱門運動場門衛所竣工。木造平屋建18坪。

6月13日 戦後はじめての水上運動会(第40回大会)隅田川、商大艇庫前で開催。

7月4日 接収中の相撲、空手、ボクシング

練習場および弓術部道場、計113坪余焼失。

昭和24年(1949)

4月1日 新制大学発足。新制大学発足にあたり、体育科目必修となり、1年生より体育実習費1000円徴収。従来の体育会費を廃す。

〃 フェンシング部、体育会加入。部長、今泉孝太郎。

〃 軟式庭球部、体育会加入。部長、河村知男(6年、軟式庭球クラブとして発足)。

5月22日 戸田艇庫落成式を兼ねた水上運動会挙行。合宿所は木造2階建一部平屋建、延45坪。艇庫は木造平屋建40坪(6艇収納)。総工費220万円はおもに端艇部先輩の尽力による(32年12月、さらに57坪余の艇庫を新築し、又39年には戸田オリンピックコース拡幅のため、艇庫の移築工事を施工したが、47年秋、新艇庫建設のため取り毀し)。

7月 水泳部、競泳部門、三鷹プールに移る。

8月 水泳部葉山寄宿舍、延215坪改修、工費220万円のうち、100万円は逗葉三田会の寄付による(26年7月木造平屋建50坪の女子寮を新築するも、35年に借地、施設とも売却)。

10月1日 日吉返還式。

〃 塾内対抗競技部所属団体の7チームが発展的に解散し、軟式野球倶楽部結成。

○ 日吉バレーボール・コート(4面)、軟式庭球コート(5面)竣工(33年日吉記念館建設のため移築)。

11月5日 三田体育会結成。会長、平沼亮三。

昭和25年(1950)

5月25日 陸上競技倶楽部より競走部合宿用建物寄贈。田園調布所在、木造一部2階建、延32坪(土地は42年買収、28年3月増築、43年土地建物とも売却)。

7月15日 「体育会誌」再刊1号刊行。

9月 日吉事務所完成。木造平屋建94坪(34年4月、高等学校体練クラブ・ルームに転用)。

10月13日 柔道部、体育会復帰。

〃 バドミントン部、体育会加入。部長、奥井復太郎(学生団体では日本最初)。

昭和26年(1951)

1月27日 日吉、柔剣道道場164坪改修、道場開き挙行(2月25日、三田道場開き)。

5月 日吉空手道場(31坪)および蝮谷浴場(27坪)新築。

〃 日吉馬場借用地1147坪買収(28年3月、636坪追加購入)。

6月 横浜にヨット部合宿所、39坪購入(27年12月、改修。46年6月11日、地主岡田偉に返還)。

7月 山中山荘別館、2階建延230坪改修。あわせて女子寮開設(27年7月、木造平屋建42坪)。

〃 水泳部葉山寄宿舍、女子寮新築、木造平屋建50坪。

9月19日 弓術部、体育会復帰(7月25日、学校弓道実施許可)。

10月7日 体育会創立60年記念式挙行。

10月15日 「体育会誌」再刊第2号を記念号として刊行。20日、記念運動会開催。

○ ホッケー部創立45周年記念式典を日吉ホッケー場で開催。

○ 日吉競技場大改修。第3種公認競技場となる。

昭和27年(1952)

1月18日 自動車部、体育会加入。部長、寺尾琢磨。

6月10日 第15回オリンピック大会(ヘルシンキ)。役員、選手13名参加。浅野均一(本部役員)、竹中正一郎(陸上役員)、石川周策(ホッケー役員)、原秀夫、小池礼三(水上役員)、日下二郎(ボート役員)、○松尾浩介、○五藤隆二、○神田和夫、○小暮保、○武内利弥(ボート)、○北野祐秀(レスリング)、○鍋谷鉄巳(体操)、牧真一(フェンシング)。〔(註)○印は学生〕

7月8日 山中山荘女子寮竣工。木造平屋建42坪。

9月10日 体育会本部竣工。木造2階建モルタル塗、延89坪。会議室、主事室、女子部員室等14室のほか、浴室、湯沸室、倉庫などより成り、工費460万円余(36年9月若干改修)。

備品、書籍購入のため、竜光会、米式蹴球OB、レスリング部OB、ボクシング部OB、帆友会、自動車部OB、三田庭球会、競走部OB、三田空手会、柔友会、三田水泳会、三田サッカー倶楽部、弓友会、フェンシング部OB、スケート部OB、三

田漕艇倶楽部、ホッケークラブ、体操会、三田倶楽部(野球)、バスケットボール部OB等からの54万円の寄付のほか、陸屋からブラインド、リノリュームの施工寄付があった。

10月24日 剣道部、撓競技部として体育会復帰。部長、島田久吉。

昭和28年(1953)

3月25日 日吉の馬場隣接地675坪、馬場用地として買収。交換条件として塾有地71坪を相手方に譲渡、借地200坪は返還。

4月28日 山中山荘隣接地、2筆計7000坪購入。

30日 競走部合宿所、15坪増築。

10月6日 日吉ローイング・タンク竣工、試漕式挙行。端艇部設計、デルタ造船所施工。

16日 塾員林彦三郎、特別病棟建設資金借入金利息分として4500万円を体育館建設資金に指定寄付。

11月24日 日吉競技場更衣室竣工、木造平屋建86坪。

12月6日 剣道部復活記念大会開催(関東各校に魁け、剣道部と変更)。

14日 自動車部創立20周年記念祝賀会を、新丸ビル・ポールスターにて開催。

昭和29年(1954)

1月28日 第2次マナスル登山隊副隊長・谷口現吉、辰沼広吉、加藤喜一郎、山田二郎、松沢幸雄、の壮行会を塾長公邸に於て開催。

〃 「黒黄会報」復刊。

3月31日 野球部第2合宿所開設(小机町1066番地に借家)。

4月17日 第2回アジア競技大会(マニラ)、役員、選手19名参加。浅野均一、井口幸男、鈴木良徳、清水康男(本部役員)、小池礼三、和田幸一(水上役員)、神田明善、○荒川八郎、田島直季、○佐藤孝尚、市毛弘文(水球)、二宮洋一、土井田宏之(サッカー)、松野信昭、○松本豊吉、○高谷美城(陸上)、大野隆正(バスケット役員)、長島久(バスケットボール)、北野祐秀(レスリング)〔(註)○印は学生〕

9月27日 軟式野球部、体育会加入。部長、英修道。

昭和30年(1955)

2月26日 「平沼亮三さんの喜寿の祝賀会」

日本体育協会、日本体操協会、日本バレーボール協会、義塾体育会、三田体育会、神奈川県体育協会、横浜市体育協会、スポーツ議員、東京6大学野球連盟、東京運動記者クラブが発起人となり、神田国民体育館に於て開催。

3月21日 レスリング部創立20周年祝賀会を、芝パークホテルで開催。

5月29日 日吉競技場に平沼亮三の胸像建つ。除幕式を兼ね喜寿祝賀会開催。

11月3日 平沼亮三、文化功労章受賞。

昭和31年(1956)

4月11日 水泳部競泳部門(11名)、川崎プール合宿所(18.8坪)に移る。

9月1日 山中山荘開荘30周年記念式を開催。

10月15日 第16回オリンピック大会(メルボルン)、役員、選手23名参加。浅野均一(本部役員)、小池礼三(水上役員)、○二宮英雄(水上)、○中尾三郎(レスリング)、衣非宏(ボート役員)、○須永定博、○江田利児、○加藤須一、○原正雄、○武田泰彦、○今村孝、○比企能樹、○渡辺靖国、○岩崎洋三、○佐々木亨(ボート)、小林忠生、○岩瀬功(サッカー)、○小野喬(体操)、○登坂哲朗(バスケット)、井口幸男(重量挙げ役員)、佐野雅之(フェンシング役員)、広堅太郎(ホッケー視察員)、小室寛(ボート・アタッシェ)。〔(註)○印は学生〕

11月3日 横有恒山岳部先輩、文化功労章受賞。

4日 ホッケー部、創立50周年記念式典を日吉ホッケー場にて挙行。

昭和32年(1957)

1月20日 スキー部合宿所落成式挙行(普通部農具室、木造平屋建40坪を改築)。

4月 合気道会創立。

11月17日 ハンドボール部創立20周年記念式を二幸食堂にて開催。

12月 慶應義塾創立百年記念体育施設建設資金募金はじめる。

7日 端艇部艇庫竣工落成式挙行。コンクリート・ブロック造、57坪、正面2扉、裏1扉、シェル・エイト12隻収容。

12日 射撃部、体育会復帰。部長、浅子勝二郎。

昭和33年(1958)

1月30日 重量挙部、体育会加入。部長、松

本信広(昭和23年5月、塾内対抗競技部新種目団体に加盟)。

4月7日 日吉弓術道場32坪、相撲道場31坪、空手道場47坪、付属便所4坪竣工(4月19日相撲、20日弓術、27日空手のそれぞれ道場開き。既設の空手道場31坪はボクシング練習場に転用)。

5月18日 創立百年記念水上運動会を戸田ボートコースにて開催。

6月1日 蹴球部創立60周年記念祭を日吉ラグビー場にて開催。これを記念して11月8日、「慶應義塾体育会蹴球部60年史」刊行、蹴球部編。

22日 奥井復太郎塾長の始球式で志木高校野球場開き挙行。

25日 志木高等学校、体育会加入。(弓術、野球、蹴球、庭球、競走、馬術、相撲の7部)。

9月26日 卓球部練習場62坪、狩野川台風(第22号台風)により倒壊。

10月5日 ヨット部創立20周年記念式典をヨット部合宿所にて挙行。

20日 日吉記念館落成式挙行。延1817坪。

11月9日 創立百年記念体育会パレード(32部、部員2115名参加)。

20年以上体育会勤続勤務者の表彰

板倉卓造、桂義郎、中野正三、加藤元一、及川恒忠、岸川辰次、園乾治、橋本孝、奥井復太郎、金原賢之助、小池隆一、吉田千代、寺尾琢磨、永沢邦男、潮田江次、石丸重治、照井伊豆、鈴木五郎、宮戸松太郎、中野八十二、清水正一、以上21名。

11日 創立百年記念全早慶親善野球試合(高等学校、全早慶および超OB全早慶の3試合を行なう)。

〃 航空クラブは、グライダー3機をもって、飛行機曳航による6大学訪問飛行を行なう。

12日 創立百年記念陸上運動会を日吉競技場にて開催。

〃 創立百年記念自動車パレード(日吉一三田一神宮外苑)。

14日 小金井に空手道場完成。16坪、三田空手会寄付。

〃 軟式庭球コート4面、日吉本町に移築竣工。

12月6日 自動車部創立25周年記念式典を交詢社にて開催。

昭和34年(1959)

3月8日 ヨット部備品庫新築および更衣所

体育会略年表

内部改修工事完成。備品庫は木造平屋建17坪。三田ヨット倶楽部の寄付。

4月13日 日吉体育館竣工。鉄骨鉄筋コンクリート造り2階建、一部3階付、延882坪余。1階各部ルームおよび卓球場(108坪)、2階柔道場(130坪)、剣道場(132坪)、および付属室、中3階ロッカー・ルーム。体育会関係者の寄付により、総工費5978万円(4月26日剣道部、27日卓球部、29日柔道部、それぞれ竣工披露を行なう)。

25日 日吉体育館竣工披露と故平沼亮三さん感謝の会開催。

7月19日 バレーボール・コート4面完成。コート開きを行なう。

8月17日 西ネパール、ヒマラヤのダウラギリ第2峰(7750m)偵察隊(隊長・加藤喜一郎、宮下秀樹、石島襄二、神戸常雄)壮行会をポールスターにて開催。

11月3日 水泳部合宿所竣工。木造平屋建42坪、ブロック積み浴場4坪。三田水泳会の寄付。

11日 空手部創立35周年記念大会を日吉記念館にて開催。

12月18日 軟式庭球部合宿所竣工。木造平屋建30余坪、女子更衣室6坪、軟式庭球倶楽部寄付。

○ 三田体育会規約改正。

昭和35年(1960)

2月20日 「慶應義塾野球部史」、義塾創立百年記念として刊行。体育会野球部史編纂委員会編。

3月27日 庭球部更衣室竣工披露。コンクリートブロック積平屋建、48坪、うちテラス7坪。

5月24日 慶應義塾ヒマラヤ登山隊、義塾創立百年記念行事の一つとしてヒマルチュリ(7864m)の初登頂に成功(登山隊10名は3月出発。初登頂に続き25日第2次登頂をはたし、6月24日帰国。6月29日、「ヒマルチュリ初登頂報告講演会」を日比谷公会堂にて開催)。

6月11日 志木高等学校柔道場竣工披露。木造平屋建40坪。三田柔友会、志木高校PTA寄付。

25日 日吉プール竣工。縦50m、横20m、9コース。水練公認第94号。工費4265万円は林彦三郎寄付金および体育施設建設資金。

7月 第17回オリンピック大会(ローマ)、役員選手29名参加。浅野均一、

平井俊一、三砂太一郎、池田亀夫(本部役員)、赤樫卓爾、神田明善(水上役員)、○清水啓吾(水上)、佐藤孝尚、山本健、○清水洋二(水球)、北野祐秀(レスリング役員)、小野喬、小野清子(体操)、○増田貴史(バスケットボール)、石井正行、川田節雄(ヨット)、五百木一雄(ホッケー役員)、飯島健、○岩橋邦雄(ホッケー)、井口幸男(重量挙げ役員)、佐野雅之(フェンシング役員)、日下二郎(ボート)、松丸貞一(サッカー)、広堅太郎(ホッケー)、野坂浩(体操)の各視察員、鍋谷鉄巳(体操)、松縄孝(ホッケー)両審判員、戸張樹一、真田雄(レスリング・マネージャー)。(註)○印は学生

10月1日 水泳部葉山寄宿舎(木造建物延281坪、借地609坪)を千代田生命保険相互会社に売却。

22日 吾妻山荘開荘式挙行政。木造2階建35坪。平塚泰蔵寄付金により、山小屋を買収し改造(40年11月1日、焼失)。

11月14日 ヒマルチュリ登頂隊、ローマ・オリンピック大会報告会を西校舎において開催。

昭和36年(1961)

6月18日 水泳部葉山寄宿舎、お別れパーティー開催。

25日 重量挙げ部練習場竣工。日吉記念館地階に先輩の寄付により設置。

9月15日 館山市塩見西浜に、葉山水泳部寄宿舎移転先として1757坪購入の件承認された。

12月9日 「慶應義塾体育会会則」、「塾内競技部規則」、「体育会幹事規程」を改正(塾内対抗競技部を塾内競技部と改称)。

15日 ホッケー部創立55周年記念として、ホッケーの単独チームとしては戦後始めて、塾ホッケー部が、ホンコン、マカオ遠征に出発した。

昭和37年(1962)

5月1日 明治19年以来続いていた恒例の慶應義塾運動会(水上、陸上)を諸経費節約のため中止する旨、塾監局より報知。(以後、行なわれず)

7月16日 体育会館山合宿所竣工披露式挙行政。木造平屋建41坪。

9月9日 バドミントン部創立20周年記念式典を日吉40番教室にて開催。

30日 器械体操部、創立60周年を記念し

て「60年誌」刊行。

10月28日 体育会創立70周年記念式典挙行政。日吉記念館にて小泉信三の記念講演あり、参会者2822名。

昭和38年(1963)

11月17日 柔道部合宿所竣工。木造平屋建112坪、総工費980万円。三田柔友会の寄付。

〃 第1回体育会競技会開催。高校対抗競技9種目(参加選手延196名)、記念レース4種目(参加選手82名)。

○ 長野県北佐久郡立科町と、体育施設建設用地として、同地の第6林班約6万坪の借地契約締結。

12月23日 体育会第2代会長、板倉卓造急逝。享年84才。

〃 GEM8世(国際スター級)購入、資金200万円はヨット部先輩および後援者の寄付による。

昭和39年(1964)

4月29日 戸田オリンピック・コース拡張(5.9m)工事に伴う端艇部合宿所、艇庫の移築工事完成。埼玉県補助300万余円、体育会営繕費69万余円。

6月14日 日吉第2プール竣工式挙行政。30m×18.5m、日本最初の水球専用プールとして設計。

8月 第18回オリンピック大会(東京)。役員、選手19名参加。室洋二郎(陸上)、荒川八郎、清水洋二(水球)、小野喬(体操)、井口幸男(重量挙げ役員)、武富邦中(バスケットボール役員)、増田貴史(バスケットボール)、片山洋(サッカー)、岩橋邦雄(ホッケー)、松平康隆(バレーボール役員)、法華津寛(馬術)、石川元、○菊池隆一、○佐藤直二、○万代治(ボート)、石井正行、棚町三郎、○大久保隆史(ヨット)、松野信昭(本部要員)。(註)○印は学生

10月24日 レスリング部創立30周年記念祝賀会を、上野東天紅にて開催。

11月3日 山岳部創立50周年記念会を産経国際ホールにて開催。

15日 第2回体育会競技会開催。高校対校競技(194名参加)、記念レース(71名参加)。

昭和40年(1965)

2月16日 体育会4代目会長、奥井復太郎逝去。享年67才。

7月11日 水球50周年記念祭を日吉プールで開催(大正4年8月15日、横浜外

人と初の公式試合)。

- 11月1日 吾妻山荘、部員の使用中全焼。
" ボクシング部創立40周年記念式典をボクシング場にて開催。

昭和41年(1966)

- 3月 重量学部練習場改造工事完成。費用は先輩団体の寄付。
4月15日 塾内競技部、廃部。
25日 「慶應義塾大学卓球部史」三卓会より刊行。
5月11日 本塾評議員会議長、学事顧問、大学名誉教授、元塾長、元庭球部長、小泉信三急逝。享年78才。
22日 合気道会創立10周年記念式典を日吉柔道場にて開催。記念誌「合気道」刊行。
6月12日 体育会館山合宿所第2期工事竣工。合宿棟、木造平屋建114坪。医務室棟、木造平屋建30坪。浴場棟、コンクリート・ブロック積10坪。工費1172万円。
9月16日 志正弓道場竣工。木造平屋建、射場のみ柱、梁鉄骨作り51坪。的場、ブロック積平家建、一部柱、梁鉄骨作り15坪。矢取道上家、パイプ構造。工費701万円余(10月2日、竣工披露、10月9日連盟各校先輩、学生に披露した)。
11月10日 日吉台野球場竣工。新幹線矢上台通過による高校野球場移転補償を受け工事実施。
19日 ホッケー部創立60周年記念式典、岸体育館において祝賀式およびパーティーを開催(43年7月1日、60周年記念誌「回顧—60年」刊行)。

昭和42年(1967)

- 3月26日 小泉信三先生記念碑除幕式。日吉コートに庭球三田会の寄付により建立。
5月9日 深津尚子(卓球部)塾長賞受賞。
6月11日 日吉洋弓練習場、竣工。
25日 ソッカー部創立40周年記念蹴球祭を第1生命グラウンドにて開催。
7月2日 館山合宿所増築工事竣工。合宿棟14坪、医務室棟10坪。
10月10日 体育会創立75周年記念式典挙行。日吉記念館にて高橋誠一郎名誉教授、織田幹雄早大先輩の記念講演あり。参会者1937名に、日本コロムビアKKより寄贈された「小泉信三記念講演レコード」を配布した。
○ 競走部合宿所敷地120坪、買収@¥100,000—。

昭和43年(1968)

- 1月 末 競走部合宿所売却。合宿部員は、白金三光町169の1、旧福澤邸に移る。
3月22日 小泉体育賞新設される。
小泉体育賞
庭球部9名(監督玉井徳造、古林隆夫、栗岡威、中島健智、田中建夫、浅井隆宣、竹内孝、柳原香積、藤原英一)
近藤重助(剣道部)、古林隆夫、栗岡威(庭球部)
小泉体育努力賞
野球部21名(監督・近藤良輔、大滝隆太、宇賀山徹、塩見徹男、柳生武彦、谷尾和、橋本博元、島村聖、池田孝、宮倉幸史、鈴木善彦、寺尾郁夫、島村精介、米沢善四郎、藤原真、伊藤長人、武田孝司、松田俊夫、松本寿孝、成田憲明、上岡誠二)
フェシング部7名(昆陽一、川口大三、小高正春、井手英一、八木仁、与田一憲、萩原滋)
5月15日 慶應義塾命名百年式典を日吉記念館にて挙行。早大蹴球部を招いて記念試合を行ない26—8で勝つ。
25日 相撲部創立50周年記念大会を、三田相撲場で開催。会場を光輪閣に移し、祝賀パーティーを開いた。
8月 水泳部合宿所自習室(6坪)増築工事竣工。
" 第19回オリンピック大会(メキシコ)、役員、選手5名参加。井口幸男(本部役員)、松平康隆(バレーボール役員)、片山洋(サッカー)、戸張樹一(レスリング役員)。
また、グルノーブル冬季大会に、丸山仁也(スキー)出場。

- 9月15日 ホッケー部更衣室竣工。軽量鉄骨2階建延34坪。ホッケー部創立60周年記念事業の最終事業として三田ホッケー倶楽部寄付。
10月20日 三田空手道場竣工。軽量鉄骨平屋建65坪。
11月13日 綱町グラウンドに全天候コート竣工。
12月 軟式庭球部更衣室竣工。プレハブ15坪。軟式庭球三田会の寄付。

昭和44年(1969)

- 3月21日 小泉体育賞
蹴球部20名(コーチ・青井達也、宝田誠治、宮田浩二、北野稔、谷川義夫、折戸明、楠日皓、坂水滉、麻生泰、下司仁士、宮坂進、佐藤博之、

高橋忠久、萩村道男、永野進、渡辺真、森田宗太郎、吉岡泰男、川口明、吉岡和夫)

来島峻(弓術部)、湯原真砂子(馬術部)

小泉体育努力賞

ホッケー部13名(監督・内藤昌、木崎一代、小沢信吾、田村信、森阪利明、足立正裕、松本光弘、小川弘之、関谷淳一、山崎邦彦、沢田潔宏、井上貴志、榊原昭正)

端艇部カヌー班8名(広田恒巳、花村民夫、田中弘治、田中等、間室洋、杉山晋也、竹原正和、成嶋平)

- 5月9日 体育会第3代会長、潮田江次逝去。享年67才。

18日 ソッカー部合宿所竣工。コンクリート・ブロック積平屋建52坪、三田サッカー倶楽部寄付。

- 6月1日 競走部創立50周年記念式典を日吉競技場にて開催。「半世紀のあゆみ1917—1969」を刊行。

- 9月18日 館山合宿所体育館竣工、鉄骨平屋建152坪。

30日 吾妻山荘、福島市名儀で竣工。木造鉄骨3階建延47坪。

- 11月25日 航空部、体育会加入。部長、清岡咲一。

- 12月6日 軟式庭球部体育会加入20周年祝賀会を丸ビル精養軒にて開催。

8日 空手部創立45周年記念式典を霞ヶ関ビル、東海大学校友会館にて開催。

昭和45年(1970)

- 2月27日 馬術部創立50周年記念祝賀会を、高輪プリンス会館にて開催。

- 3月21日 小泉体育賞

サッカー部14名(監督・二宮洋一、福井民雄、大仁邦弥、村越克巳、和田四郎、曾田政之、坂本正夫、津田幸孝、関口真、村田和美、山田道則、財徳健治、岡寿、大谷栄一)

川西大介(弓術部洋弓班)

小泉体育努力賞

フェンシング部5名(今井芳樹、山口典宏、伊東義人、武智英昭、赤尾義弘)

軟式野球部13名(嶋川紳二、土橋大、三宅占二、加藤久雄、和田進、大前哲司、金野進吉、古林正、織戸晃、渡辺透、河岡順一、滝口一郎、吉田泉)

バスケットボール部8名(伊東弘泰、小泉滋男、小口賢司、武貞憲一、

体育会略年表

児玉正夫、丸尾充、佐藤富保、小浜豊)

竹田恒和(馬術部)、岡村富男(スキー部)

4月22日 山中山荘艇庫用地100坪追加購入(交換地200坪、計300坪)。

27日 ゴルフ部、体育会加入。部長、松本三郎。(27年グリーン・クラブとして創立)。

5月31日 パウダ峰頂上直下で遭難死亡した故板谷晏男君の追悼会を演説館で開催(パウダ峰遠征隊は5月9日、登頂成功)。

7月30日 矢上台グラウンド使用停止(工学部日吉移転工事のため)。

10月29日 ボクシング部創立45周年記念祝賀会を銀座ニュー・アサヒにて開催。

30日 山中山荘艇庫竣工。コンクリート・ブロック積21坪。

11月8日 競走部、スキー部合宿所竣工披露。木造2階建83坪(この建物の屋根材料全部は野崎豊男空手部先輩、建築金具2050本も真下欽一空手部先輩の寄付)。

昭和46年(1971)

2月23日 館山合宿所艇庫竣工。27坪。

3月21日 軟式野球部創立20周年記念祝賀会開催。

23日 小泉体育賞。

端艇部9名(安田新治、岩谷康正、亀山憲一、北村勇、関達義、小室光一、高橋孝夫、山田憲治、草ヶ谷吉紀)

庭球部7名(川久保理、金泉典義、野間正、白石剛久、高橋直和、空沢彰一、中野雅晴)

岡村富雄(スキー部)、和田光二(空手部)

小泉体育努力賞

竹原正和(端艇部カヌー班)、向後由美子(フェンシング部)

自動車部3名(那波史郎、岩崎春喜、北田高明)

6月11日 ヨット部合宿所竣工披露。木造平屋建、屋根カラーコロニアル葺72坪(敷地370坪は三浦市初瀬、三戸浜漁業組合から借地)。

8月18日 野球部合宿所竣工披露。鉄筋コンクリート2階建延230坪および雨天投球練習場、三田倶楽部寄付1500万円。

9月14日 蹴球部合宿所竣工披露。鉄筋コンクリート2階建延226坪、黒黄会寄付1500万円(野球、蹴球両合宿所総

工費9500万円)。

10月17日 合気道会道場竣工。軽量鉄骨モルタル塗平屋建56.5坪、合気道先輩および部員の寄付。

11月21日 庭球部創立70周年記念式典を日吉コートにて挙行。午後5時からホテル・ニュージャパンにて祝賀宴開催。47年3月5日「慶應庭球70年」刊行。

昭和47年(1972)

3月23日 小泉体育賞

ヨット部6名(白木勝久、小森洋一、八木英行、林健司、白勢仁土、日野宗一郎)

岡村富雄(スキー部)、和田光二(空手部)佐藤勝(レスリング部)

小泉体育努力賞

端艇部2名(山田賢治、小室光一)

野球部13名(監督・榊原敏一、松下勝美、山本光介、工藤真、小川博、野端啓夫、池田和雄、萩野友康、吉沢敏雄、白井喜久男、木原弘人、山下大輔、水谷和則)

ホッケー部12名(監督・椎津昭吉、高瀬宗救、重元明雄、山本玄、浅田純、田中健、溝上正晴、重田定太郎、落合武志、武宮徹郎、梅沢好光、松本和男)

4月9日 体育会第6代会長、永沢邦男、米国旅行中客死、享年72才。

20日 合気道部、体育会加入。部長、細谷英吉。

5月20日 綱町相撲場、先輩援助を受けて竣工。木造2階建延47.5坪。

26日 鯉谷部室竣工。軽量鉄骨平屋建20坪。

6月18日 バドミントン部創立30周年記念式典を日吉記念館にて挙行。

7月 第20回オリンピック大会(ミュンヘン)。役員選手7名参加。松平康隆(バレーボール役員)、井口幸男、佐野雅之(本部役員)、竹田恒和(馬術)、○峰岸直人(水球)

また、札幌冬季大会には大杖正彦、○岡村富雄(スキー)出場。〔(註)○印は学生〕

○ 綱町バレーコート竣工。

10月10日 器械体操部創立70周年記念式典を日吉記念館にて挙行。

11月3日 体育会創立80周年記念式典、日吉記念館にて挙行。高橋誠一郎名誉教授、大西鉄之祐早大教授の記念講演あり。

7日 体育会事務室、第2校舎2階に移

る。

昭和48年(1973)

1月28日 端艇部合宿棟、鉄筋コンクリート2階建延106.9坪。第2艇庫、鉄骨造平屋建84.2坪、竣工披露。三田漕艇倶楽部寄付1200万円(総工費3200万円)。

3月23日 小泉体育賞

端艇部カヌー班2名(梶原潔、右近順一)

水泳部水球部門12名(監督・清水洋二、峰岸直人、山本敏治、大谷津一郎、上村信博、神谷正、大貫利和、荒谷宏壮、斉勝秀久、玉木伸久、丸山敬二、鈴木常宏)

野球部18名(監督・大戸洋儀、萩野友康、池田和雄、薙野和明、泉信行、佐々木省三、西田幸裕、高本文典、按田義明、長谷部優、吉沢敏雄、川田雄平、飯田昭雄、白井喜久男、木原弘人、山下大輔、福田崇、池田利美)

小泉体育努力賞

浜田浩(フェンシング部)、岩本敏男(自動車部)

24日 フェンシング道場増築工事竣工。木造平屋建27.8坪、計74.75坪。三田フェンシング・クラブ寄付226万円。

7月30日 立科山荘開荘披露式挙行。

12月1日 山岳部創立60周年記念講演会、三田演説館にて開催。

15日 自動車部創立40周年祝賀式を松屋サロンにて開催。

昭和49年(1974)

3月23日 小泉体育賞

剣道部13名(監督・金子国吉、コーチ・岡田陸夫、伊藤隆一、今川裕、戸張恒治、山洪幸徳、藤井道民、町吉幸、山洪浩司、谷口玄一郎、池田逸夫、植田史生、山本正信)

弓術部洋弓班9名(竹原利明、後藤章、畠山雅一郎、佐藤達也、須川鉄朗、高島良平、吉田大輔、高橋伸幸、山口広幸)

水泳部水球部門12名(監督・清水洋二、峰岸直人、上村信博、大谷津一郎、母里修司、神谷正、山口真名、大貫利和、玉木伸久、斉藤秀久、丸山敬二、玉置知久)

桑田健秀(バスケットボール部)、浅川辰彦(ゴルフ部)

小泉体育努力賞

馬術部3名(村井勝美、黒田尚宏、

齊藤庫之丞)

自動車部4名(伊勢田憲司、梶谷鉄朗、川田和史、清水裕道)

月田隆大(弓術部)、藤口光紀(サッカー部)、淡川裕(フェンシング部)

5月19日 レスリング部創立40周年記念式典、レストランニホンバシにて開催。

26日 蹴球部創立75周年記念式典、日吉競技場にて開催。

8月30日 弓術部洋弓90m射場竣工。工費186万円、三田弓友会寄付。

10月13日 空手部創立50周年記念式典を日吉記念館にて挙行(10月15日「慶應義塾体育会空手部50年史」刊行)。

11月27日 射撃部日吉射撃場竣工。鉄骨平屋建、屋根カラー鉄板瓦葺き、約40坪。三田射撃倶楽部寄付535万円。

12月14日 弓術部更衣室竣工。プレハブ平屋建7.24坪。148万円および3連ロッカー14台、三田弓友会寄付。

昭和50年(1975)

3月25日 小泉体育賞

弓術部洋弓班10名(コーチ・伊沢誠二、佐藤達也、須川鉄朗、塩崎繁彦、渡辺勇二、辻雪美峰、吉田大輔、長谷川清一、山口広幸、高橋伸幸)

水泳部葉山部門3名(永野毅、宮口裕、伴元晴)

庭球部7名(監督・佐藤国三郎、桜井辰哉、飯田憲雄、佐藤友則、吉田亘、多屋昌彦、佐藤隆三郎)

小泉体育努力賞

空手部5名(松本学、佐々木浩一、里見和洋、藤田進一郎、蓮池敬一郎)
佐藤達也(弓術部)・大貫利和(水泳部水球部門)・国元春野(庭球部)

25日 軟式野球部創立25周年記念祝賀式挙行。

10月4日 ボクシング部創立50周年記念式典および祝賀パーティーを交詢社にて開催。これを記念して51年、「ボクシング部50年史」刊行。

昭和51年(1976)

3月23日 小泉体育賞

端艇部7名(白須貫司、石原修、神谷俊吉、野本浩、松川文洋、田中豊、岡本洋祐)

競走部4名(野本裕巳、武田薫、谷口治司、田崎博道)

町吉幸(剣道部)、後藤寿彦(野球部)、多田裕嘉(射撃部)

小泉体育努力賞

杉本欣哉(自動車部)、瀬戸信昭(ゴルフ部)

7月9日 フェンシング部創立40周年記念総会を山食にて開催。

23日 野球場レフト側防球ネット竣工。

8月5日 綱町プール排水貯水槽、グラウンド排水路竣工。

10月17日 合気道部創立20周年記念式典を日吉道場にて開催、創立20周年記念号を刊行。

第21回オリンピック大会(モントリオール)役員、選手7名参加。廣堅太郎、佐野雅之(本部役員)、福山信義(水泳役員)、桑田健秀(バスケットボール)、竹田恒和(馬術)、高柳憲昭(アーチェリー役員)、下河辺大三(端艇役員)

また、第12回冬季オリンピック大会(インスブルック)役員3名参加。廣堅太郎、佐野雅之(本部役員)、丸林光祥(スキー役員)

昭和52年(1977)

2月14日 体育会本部前塾旗掲揚ポール竣工。

3月23日 小泉体育賞

端艇部5名(細田真、新井宗明、三堀長太郎、小泉宏、相沢浩司)

庭球部9名(園田孝一、堀場雅彦、伊勢久純、西山麻比古、江原素明、佐藤栄一、田中利明、川島博、坂井一郎)

競走部4名(崎尾剛、武田薫、谷口治司、田崎博道)

岡本洋祐(端艇部)、田崎博道(競走部)、五十嵐文男(スケート部)

小泉体育努力賞

端艇部2名(小寺芳朗、清水邦雄)
端艇部2名(岡本洋祐、磯部明宏)

堀場秀孝(野球部)、村越安雄(スキー部)、岡本順治(アメリカンフットボール部)、柿沼光信(アメリカンフットボール部)、勝地文雄(ハンドボール部)

5月13日 ゴルフ部練習場竣工。

10月8日 スケート部創立50周年記念式典をホテル高輪にて開催。

23日 体育会創立85周年記念式典を日吉記念館にて開催。

11月13日 器械体操部創立75周年記念祭を日吉記念館にて開催。

20日 ハンドボール部創立40周年記念祝宴を日吉にて開催。40年の歩みを刊行。

24日 馬場散水設備竣工。

昭和53年(1978)

1月17日 慶應義塾体育会年表を刊行。

21日 柔道部創立100周年記念式典を交詢社にて開催、部史第2巻創立100年記念を刊行。

3月23日 小泉体育賞

端艇部5名(小泉宏、大谷健司、清時康夫、広瀬和則、相沢浩司)

庭球部10名(江原素明、横山卓幸、小林立彦、佐藤栄一、小林英夫、佐々木慎二、田中利明、川島博、細谷克彦、窪山明彦)

岡本洋祐(端艇部)、安川清一郎(水泳部)、木村研二(競走部)

小泉体育努力賞

蹴球部18名(監督・柴田孝、高橋英二、安積英樹、是永龍之、松木弘志、筒井京弥、黒沢利彦、山城泰介、荒井哲也、小西雅之、富安治彦、中曾根寛、永岡章、浜本剛志、水井哲之、今岡秀輔、梶紳二、阿部匡)

平山俊一(アメリカンフットボール部)、稲垣武(アメリカンフットボール部)、勝地文雄(ハンドボール部)

4月28日 水泳部合宿所改修。

6月1日 卓球部創立40周年記念式典を丸ビル精養軒にて開催。

8日 水泳部合宿所浴室改修。

7月19日 ホッケー場、サッカー場散水設備竣工。

8月1日 ソッカー部50年を刊行。

9月24日 自動車部創立45周年記念祝賀会を三田にて開催。

10月1日 スケート部、50年史を刊行。

9日 剣道部創立100周年記念祝賀会をホテルニューオータニにて開催。

9日 蛭谷テニスコート3面をオールウェザーに改修。

11日 重量挙げ部体育会加入20周年記念式典を日本閣にて開催。

12日 吾妻山荘改修。

昭和54年(1979)

3月10日 綱町剣道場浴室ボイラーを都市ガスに改修。

23日 小泉体育賞

端艇部2名(川松敦嗣、高橋誠介)
堀場秀孝(野球部)、稼勢恵一郎(競走部)、五十嵐文男(スケート部)

小泉体育努力賞

藤田正樹(野球部)、浜本剛志(蹴球部)、永岡章(蹴球部)、豊田章男(ホッケー部)、森正久(空手部)、日

体育会略年表

下部健(自動車部)、徳山司文(自動車部)

5月13日 蹴球部創立80周年記念式典を日吉競技場にて開催。

6月20日 自動車部 創立45周年誌を刊行。

9月12日 野球場散水設備竣工。

10月13日 端艇部創立90周年記念祝賀会を交詢社にて開催、創立90周年記念誌を刊行。

13日 相撲部創立60周年記念祝宴を三越シルバーハウスにて開催。

20日 軟式庭球部体育会加入30周年記念祝宴を三越本店にて開催。

11月24日 レスリング部創立45周年記念祝賀会を交詢社にて開催。

12月5日 軟式庭球部更衣室竣工。

13日 体育会事務室南校舎1階に移転。

昭和55年(1980)

1月14日 綱町グラウンド散水設備竣工。

2月29日 航空部創立50周年記念祝賀会を航空会館にて開催、積雲第14号創立50周年記念特集号を刊行。

3月24日 小泉体育賞

弓術部10名(高橋良一、西村明弘、鈴木健志、安倍伸一、坂本隆、江原一博、田中誠、柳沢幹彦、神野浩、下山和生)

端艇部5名(川越亨彦、大河原秀一郎、大坪正剛、静信幸、坂本光司)

水泳部3名(石原潔、下村治、小沢敏也)

自動車部4名(日下部健、橋爪隆史、国枝宏之、福井照信)

航空部2名(林隆司、松本哲也)

田中誠(弓術部)

増井奈雄子(自動車部)

小泉体育努力賞

馬術部8名(前田淳、西村正治、細田壮一、伊豫谷友、高見幸生、小林正和、鍋谷操一、中村護)

ゴルフ部6名(三村百合子、藤田結花、鈴木雅子、曾由莉、三木恵美子、原葉子)

青島健太(野球部)、川島博(庭球部)、加藤洋一(ハンドボール部)、加古雅彦(ハンドボール部)、星野由江(自動車部)

28日 バスケットボール部創立50周年記念祝賀会を日本工業倶楽部にて開催、「50YEARS」を刊行。

4月5日 綱町剣道場改修。

6月26日 テニスコート練習板竣工。

28日 軟式野球部創立30周年記念式典をパレスホテルにて開催、青い麦

No.5 創立30周年特集を刊行。

7月16日 ボクシング道場床改修。

9月9日 ラグビー場散水設備、スタンド竣工。

軟式野球場散水設備竣工。

11月14日 ボクシング部創立55周年祝賀会を交詢社にて開催。

第13回冬季オリンピック大会(レイクプラシッド)役員、選手3名参加。廣堅太郎、牧野呂(本部役員)、○五十嵐文男(スケート)〔(註)○印は学生〕

昭和56年(1981)

3月23日 小泉体育賞

水泳部7名(監督・今村公一、下村治、小沢敏也、青柳努、橋爪英忠、山本哲也、森田喜和)

自動車部5名(監督・大橋幸雄、泉啓史、渡辺一夫、坂牧慶一、関口雅彦)

自動車部3名(星野由江、増井奈雄子、大村晶子)

ゴルフ部6名(監督・松本富夫、鈴木雅子、鹿内聖子、小佐ゆう子、三木恵美子、伊藤佳子)

五十嵐文男(スケート部)、野沢健太郎(射撃部)

小泉体育努力賞

弓術部3名(古瀬貴美恵、鈴木慶子、今泉直子)

弓術部3名(安倍伸一、坂本隆、太田信之)

蹴球部17名(監督・田川博、東山勝英、荒牧滋美、柳田英二、中川龍士、渡部政和、緒方研三、畑生恵司、阿部匡、市橋豊、清原定之、権正徳之、上野精一、柴田勝浩、氏家俊明、平島健右、小林俊一郎)

今泉直子(弓術部)、堀内俊介(端艇部)、橋本文博(水泳部)、藤川きよみ(水泳部)、竹末泰士(水泳部)、塚本順三(フェンシング部)、永峰真(自動車部)、桜井真弓(自動車部)、山崎秀則(ゴルフ部)

4月15日 フェンシング部創立45周年記念祝宴を山食にて開催。

9月14日 剣道場床改修。

10月4日 庭球部創立80周年記念式典を日吉にて開催。

12月5日 バレーボール部創立50周年記念祝宴を富国生命ビルにて開催、創立50周年記念誌を刊行。

13日 ホッケー部創立75周年記念式典を松屋サロンにて開催、75周年記念

誌を刊行。

昭和57年(1982)

3月23日 小泉体育賞

端艇部5名(井内仁、大津直之、田口二郎、松方雪雄、鈴木浩明)

馬術部5名(鍋谷操一、細田壮一、高見幸生、中村護、伊豫谷友)

ゴルフ部7名(小佐ゆう子、中沢久理子、三木恵美子、青柳恵、館鼻彰子、伊藤佳子、青柳純子)

太田信之(弓術部)、堀内俊介(端艇部)、細田壮一(馬術部)、五十嵐文男(スケート部)

小泉体育努力賞

自動車部5名(関口雅彦、坂牧慶一、松沢卓、高橋義教、上野真吾)

自動車部3名(大村晶子、上領絵里、吉田佳純)

原田敏弘(弓術部)、花内誠(水泳部)、竹末泰士(水泳部)、小林宏(野球部)、奈良文彦(相撲部)、江川泰(ハンドボール部)、志村久弥(ハンドボール部)伊藤佳子(ゴルフ部)

4月1日 洋弓部 弓術部から分離独立。

16日 ホッケー部更衣室改修。

5月29日 三田アーチェリークラブ発足記念会を霞ヶ関三井クラブにて開催。

6月21日 ゴルフ部創立30周年記念ゴルフ大会を相模カンツリー倶楽部にて開催。

27日 バドミントン部創立40周年記念祝宴を青山ダイヤモンドホールにて開催。

7月2日 空手部創立50周年記念祝宴を東京プリンスホテルにて開催。

9月25日 ヨット部創立50周年記念式典を帝国ホテルにて開催、50年史を刊行。

10月3日 器械体操部創立80周年記念式典を日吉にて開催、80年誌を刊行。

17日 水泳部創立80周年記念式典を東京プレイボーイクラブにて開催。

昭和58年(1983)

3月23日 小泉体育賞

端艇部5名(西村光雄、宮嶋大祐、中田一夫、下田浩平、中島功博)

端艇部(カヌー)4名(松方雪雄、栗山俊久、笠原亮一、鈴木浩明)

水泳部(葉山部門)6名(青柳努、児島大司、橋爪英忠、本橋光一、山本哲也、沢雅弘)

自動車部5名(細包憲志、松山保幸、浅野哲志、後藤一夫、村田裕之)

航空部 4名(竹嶋信弘、武居稔、斎藤茂宏、吉村興三郎)

ゴルフ部 6名(三木恵美子、田中優子、青柳恵、館鼻彰子、伊藤佳子、川口真理子)

渋谷浩志(水泳部)、中村護(馬術部)、塚本順三(フェシング部)

小泉体育努力賞

端艇部 4名(刈谷正彦、牛尾和孝、土屋浩之、清水新一郎)

自動車部 7名(片桐隆夫、高橋義教、松山保幸、浅野哲志、上領絵里、永嶺陽子、吉田佳純)

軟式野球部 16名(樋上泰昭、中村圭介、高野英康、古村勲、大間知慎一郎、榊伸行、林二郎、堀江英世、戸倉正、小山晃司、中井昌之、向井孝行、倉持等、井出洋一、福田健治、田中真光)

阿部伸子(弓術部)、清原定之(蹴球部)、長岡由木彦(馬術部)、丸茂和久(馬術部)、豊田浩(空手部)、秋田和浩(ハンドボール部)

4月5日 蹴球部 宿舎所給湯ボイラー取替火入れ式。

30日 剣道部 三田綱町道場床改修。

5月15日 義塾創立125年記念式典 日吉記念館にて開催、西原春夫早稲田大学総長、ジョン・バターフィールドケンブリッジ大学ダウニング校学長の祝辞。

5月19日 日吉プール更衣室竣工。

7月8日 山中山荘竣工。本館棟・宿舎棟からなり鉄筋コンクリート地上2階建床面積延2,226.01㎡(673.37坪)他に雨天トレーニング場 鉄骨造り地上1階建 80㎡、既設グラウンド隣りにグラウンド1面が造成された。

7月25日 山中山荘各部署長に披露。

10月15日 自動車部創立50周年記念式典を三田西校舎で開催。三田三井クラブで祝賀パーティーを開いた。これを記念して59年「自動車部創立50周年記念誌」刊行。

昭和59年(1984)

2月12日 ヨット部救助艇贈呈式(三田ヨット倶楽部寄贈)。

3月23日 小泉体育賞

水泳部(葉山部門) 12名(児島大司、橋爪英忠、本橋光一、山本哲也、有吉伸久、沢雅弘、中根信彦、男全正恵、根良浩一、松尾昌直、中村好孝、千種潤也)

自動車部 4名(後藤一夫、細包憲

志、福井明広、村田淑)

高橋義教(自動車部)、柿沼寿美江(自動車部)

小泉体育努力賞

庭球部 2名(浜野義也、友岡孝)

自動車部 2名(黒島光司、小林康人)

洋弓部 12名(押野貴雄、吉野浩樹、荒木敏行、林昭有、太田信之、佐藤裕久、平誠二、麻生康浩、関根英一郎、田中元啓、石川宏道、海老沢周)

真鍋正臣(競走部)、面雅子(馬術部)、井上真紀(馬術部)、平林義規(ハンドボール部)、戸倉正(軟式野球部)

7月12日 山中山荘女子寮改修。

8月30日 体育会新種目団体少林寺拳法会並びに所属団体拳法会道場竣工。鉄骨造地上1階建延349㎡(105.57坪)、男子更衣室2室・女子更衣室、ミーティングルーム・シャワー室。少林寺拳法三田会・三田拳法会寄付。

9月9日 所属団体拳法会蝮谷道場開き並びに創立30周年記念式典、祝賀パーティーを渋谷東急文化会館にて開催。

10月20日 レスリング部50周年記念祝賀会、東京会館にて開催。

10月28日 馬術部厩舎竣工。鉄骨造地上2階建延436.76㎡(132.12坪)、1階馬房16、鞍置場、馬糧庫、2階男子・女子更衣室 会議室、管理人室2室、三田乗馬会寄付。

10月29日 スキー部創部50周年記念式典、芝パークホテルにて開催。スキー部50年誌刊行。

11月10日 山岳部70周年記念総会、銀座交詢社にて開催。

10日 新種目団体少林寺拳法会道場落成記念式典 蝮谷少林寺拳法会道場にて開催。

12月14日 下田浴場竣工。

12月15日 所属団体慶應パトリック倶楽部創立65周年記念パーティー、銀座交詢社にて開催。

第23回オリンピック大会(ロサンゼルス)役員、選手9名参加。廣堅太郎、福山信義(本部役員)、堀内俊介(漕艇)、竹田恒和(馬術役員)、デモンストレーション競技野球、山本英一郎、河合貞雄、鈴木義信、斎藤信太郎、(役員) ○上田和明(野球)〔(註)○印は学生〕

また、第14回冬季オリンピック大会(サラエボ)、役員2名参加。佐野雅之(本部)、大杖正彦(スキー役

員)。

昭和60年(1985)

3月23日 小泉体育賞

端艇部 6名(宮島大祐、中田一夫、北出太三郎、下田浩平、片山宏昭、石丸元国)

端艇部(カヌー) 4名(片山剛、松井鋭、桑原稔、岩崎清一)

端艇部(カヌー) 2名(岩崎清一、熊谷善一郎)

蹴球部 19名(監督・上田昭夫、松永敏宏、中山剛、市瀬豊和、浅田武男、田代博、玉塚元一、良塚正剛、村井大次郎、林千春、五所紳一、清水周英、橋本達矢、生田久貴、中野忠幸、山越克雄、若林俊康、柴田志通、吉沢英雄)

自動車部 5名(村田淑、小林康人、今井正一、高橋幸雄、野一色洋)

重信和行(水泳部)

小泉体育努力賞

弓術部 9名(鈴木清久、小川哲也、上神田充、小茂鳥潤、井上和俊、大河原淳、杉浦昌樹、土岐元也、御園生浩章)

水泳部 4名(花内誠、正山大、國代竜一、重信和行)

花内誠(水泳部)、上田和明(野球部)、橋本知幸(馬術部)、面雅子(馬術部)、平林義規(ハンドボール部)、柿沼寿美江(自動車部)

5月10日 日吉プール改修。

6月12日 山中山荘新井戸堀竣工。

7月6日 軟式野球部創立35周年記念パーティー、銀座ホテル熱海荘にて開催。

9月18日 蝮谷・下田両地区便所竣工。

10月9日 ボクシング部創立60周年記念式典 交詢社にて開催。

11月3日 第50回早慶対抗剣道試合記念祝賀会、銀座三越特別食堂にて開催。

昭和61年(1986)

3月24日 小泉体育賞

弓術部 6名(大河原淳、土岐元也、久慈直伊、山本英明、根谷崎基彦、峯島茂之)

端艇部 4名(熊谷善一郎、蔵本清登、大塚隆、安川美土)

野球部 20名(監督・前田祐吉、助監督・綿田博人、遠藤靖、橋本良祐、仲沢伸一、佐藤達、奈良暢泰、村井保仁、菊池義徳、石井章夫、島田一、相場勤、芳賀映明、芦川照弘、鈴木哲、猿田和三、沼野誠、荒川俊裕、

体育会略年表

志村亮、佐藤達樹)

蹴球部19名(監督・上田昭夫、中野忠幸、林千春、青井博也、栗原正信、渡瀬裕司、太田将、五所紳一、橋本達矢、清水周英、生田久貴、瀬田俊一、油山哲也、上島治、山越克雄、太田浩介、若林俊康、柴田志通、柴田陽一)

自動車部4名(青木孝晋、川村智弘、今井正一、高橋幸雄)

自動車部3名(細井祥子、柿沼寿美江、三好雄子)

久慈直伊(弓術部)、面雅子(馬術部)、鈴木勉(自動車部)

小泉体育努力賞

馬術部5名(岸本千賀子、中村恭子、面雅子、武内麻子、戸松純子)

ハンドボール部12名(平林義規、木全真人、青木治久、竹本英俊、高岡具永、今井克彦、川島伸夫、門井宏二郎、山崎典生、宮嶋裕行、勝又憲一、児玉光博)

國代竜一(水泳部)、岩永治朗(山岳部)、矢口善久(自動車部)

8月15日 レスリング部50年史「若き血に燃えて」刊行。

8月31日 下田、ホッケー部部室増築竣工。

10月4日 フェンシング部創立50周年記念式典、銀座交詢社にて開催。創立50周年記念誌刊行。

10月27日 ホッケー部創立80周年記念式典 平河町松屋サロンにて開催。

11月8日 合気道部創立30周年記念式典 芝パークホテルにて開催。

11月29日 バレーボール部創立55周年祝賀会、日比谷東京会館にて開催。

昭和62年(1987)

1月9日 蹴球部屋内トレーニング場竣工。

2月2日 野球部屋内練習場竣工。

2月13日 アメリカンフットボール部練習場、ハンドボール場整地及び拡張工事竣工。

3月7日 軟式蹴球部体育会昇格30周年記念誌発刊祝賀会、三田山食にて開催。ソフトテニスの新世紀「軟式蹴球100年」刊行。

3月20日 ソッカー部創立60周年記念パーティー、芝パークホテルにて開催。

3月23日 小泉体育賞

弓術部12名(岡本健太郎、伊江竜一、岩戸禎二、原田博史、山本英明、藤森功顕、広幡忠晴、久慈直伊、福田望、渡辺哲仁、根谷崎基彦、瓜生護)

自動車部3名(鎌倉ゆかり、酒井恵理子、後藤容子)

航空部3名(佐藤隆、五島勝也、木村裕徳)

藤井雅弘(自動車部)

小泉体育努力賞

水泳部(競泳部門)4名(重信和行、正山大、國代竜一、小川智)

自動車部4名(今道智、五月女直史、藤井雅弘、高橋幸雄)

久慈直伊(弓術部)、國代竜一(水泳部)、相場勤(野球部)、加藤健(野球部)、猿田和三(野球部)、若林俊康(蹴球部)、中野忠幸(蹴球部)、山越克雄(蹴球部)、武内秀行(競走部)、面雅子(馬術部)、古村典子(射撃部)、本橋雅子(自動車部)、池田達彌(洋弓部)

6月5日 卓球部創部50周年記念式典、パレスホテルにて開催。創部50周年記念誌刊行。

9月30日 アメリカンフットボール練習場 倉庫およびキック練習用防球ネット新設。

11月3日 器械体操部創立85周年祭、日吉記念館にて開催。本塾高校グリーンハウス食堂にて記念パーティー開催。

11月11日 ハンドボール部50周年記念祝賀会、帝国ホテルにて開催。50年の歩み刊行。

11月22日 柔道部合宿所西側境界塀改修。

12月6日 体育会創立95周年記念式典、日吉記念館にて開催。吉田宏(剣道部 昭10)先輩の講演、本塾高校日吉会堂にて祝賀会を開催。

昭和63年(1988)

1月28日 下田ハウス(女子合宿棟)竣工。(照井伊豆元体育会主事御令室寄贈)

3月23日 小泉体育賞

野球部18名(猿田和三、鈴木哲、荻原滋、加藤豊、加藤健、川辺孝之、荒川俊裕、川村嘉彦、堤辰佳、志村亮、御子柴一彦、中村圭、井上品、森山健一、大石康生、桜井啓太郎、大森剛、高橋清信)

自動車部5名(監督・池田知弘、工藤浩一、新井柳輔、村井康弘、福田浩一)

自動車部3名(本橋雅子、後藤容子、安藤玲子)

航空部2名(五島勝也、石河宏)

牧野憲一(自動車部)

小泉体育努力賞

水泳部(競泳部門)2名(國代竜一、

小川智)

馬術部4名(武内麻子、戸松純子、富田はるひ、堀川敬子)

サッカー部17名(比留間貴士、小野伸太郎、井口海太、遠藤貴久、永原伸頼、原田清、竹本直人、峰松繁、袴田健司、兼平修一、西山琢馬、村野晃、須田芳正、文箭達三、村上晋也、依田利典、大越政幸)

射撃部3名(古村典子、伊藤みか、猪谷朋代)

自動車部4名(村井康弘、中村元春、芦澤剛、芝山健彦)

自動車部4名(本橋雅子、後藤容子、安藤玲子、広原理江)

ゴルフ部2名(勝又正浩、木下幸一)

小林且弥(水泳部)、小池直巳(競走部)、宮部保範(スケート部)、久保田正美(空手部)、諏訪隆博(バトミントン部)、岡崎孝彦(航空部)

3月24日 三田・自動車部部室改築。

4月25日 日吉プール浄水タンクオーバーホール。

5月20日 スキー部合宿所ウエイトトレーニング室及びシャワー室棟竣工。

7月20日 下田・野球部グラウンド芝吹き付け。

7月25日 日吉プール(水球)夜間照明工事竣工。

11月6日 蛭谷・洋弓部部室竣工。

11月26日 野球部創部100周年記念行事 三田綱町グラウンドにて記念紅白試合、三田三井倶楽部にて祝賀会を開催。慶應義塾野球部史(上・下巻)刊行。

12月15日 蛭谷浴場棟竣工。

第24回オリンピック大会(ソウル)、役員、選手5名参加。福山信義(本部役員)、竹田恒和(馬術役員)、デモンストレーション競技野球 鈴木義信(役員)、○鈴木哲(野球)○大森剛(野球)〔(註)○印は学生〕

また、第15回冬季オリンピック大会(カルガリー)、役員2名参加。廣堅太郎、佐野雅之(本部役員)

平成元年(1989)

1月31日 射撃部射場散弾防止板改修。

3月23日 小泉体育賞

馬術部6名(竹村文利、佐々木輝彦、小泉徹也、森北博巳、白藤淳、生井健一)

自動車部6名(監督・今井靖、福田浩一、片山隆英、松平照康、伊村敬、今川衛)

自動車部 3 名(後藤容子、安藤玲子、広原理江)

自動車部 3 名(福田浩一、矢崎慎介、杉原弘一)

航空部 3 名(岡崎孝彦、山頭誠、貴島慎一)

志村亮(野球部)大森剛(野球部)

宮部保範(スケート部)

小泉体育努力賞

自動車部 4 名(後藤容子、大内麻美、斉藤尚子、広原理江)

航空部 9 名(岡本泰明、田中弘、佐藤真浩、貴島慎一、飛松郁男、福田豊、大隅智春、阿藤渉、久保田浩)

根谷崎基彦(弓術部)、重光前(庭球部)、面野雄(庭球部)

10月13日 相撲部創立70周年記念式典。綱町相撲道場にて先輩総覧稽古。三越シルバーハウスにて祝賀会を開催。

11月11日 所属団体慶應パトリック倶楽部創立70周年記念パーティー、銀座交詢社にて開催。

11月25日 端艇部創部百周年記念式典、帝国ホテルにて開催。

平成 2 年(1990)

3月3日 ボクシング部道場増・改築竣工披露、日吉藤山記念館にて祝賀パーティー開催。

3月22日 日吉台野球場外野部分土入れ改修。

3月23日 小泉体育賞

端艇部11名(監督・鈴木壮治、畠山滋二、沢村昌之、矢野善之、中山郁夫、鈴木和男、浜崎桂、中山誠、小林琢磨、古館治彦、加藤将樹)

端艇部(カヌー) 2 名(中尾誠樹、富岡彰久)

自動車部 4 名(斉藤尚子、大内麻美、広原理江、伊村敬)

中尾誠樹(端艇部)、若松幸司(野球部)、森北博巳(馬術部)、宮部保範(スケート部)

小泉体育努力賞

端艇部(カヌー) 4 名(中尾誠樹、野口二郎、富岡彰久、小森力弥)

洋弓部12名(監督・川西大介、清水徹也、大日方元、野村嘉一郎、大隅智正、秋山和洋、美好徹、原淳二、坪谷昌二、田中昭志、正源寺剛、長浜創)

四谷部弓道部 6 名(上村隆一郎、藤井義広、伊藤清治、井上卓、志津木健、内田浩)

高芝秀長(野球部)、清水徹也(洋

弓部)、長浜創(洋弓部)

4月1日 少林寺拳法部、新種目団体から昇格。部長、山田辰雄。

6月2日 下田・蹴球部グラウンド排水設備改修。

7月22日 山中山荘グラウンド芝生植生、芝生整備機器および同収納庫工事竣工(黒黄会寄贈)。

11月28日 重量挙部部室改修。

12月8日 少林寺拳法部創立30周年記念式典、パレスホテルにて開催。

平成 3 年(1991)

3月10日 下田ホッケー部グラウンド防球ネット新設。

3月23日 小泉体育賞

端艇部(カヌー) 8 名(コーチ・大津直之、小森力弥、岡部祥光、大川博、上田達也、佐々木徹、塚田勝之、高島晶)

ヨット部 2 名(伊藤宏樹、石黒克司)

航空部 3 名(久保田浩、大隅智春、阿藤渉)

白藤淳(馬術部)、力石尚武(自動車部)

小泉体育努力賞

水泳部(葉山部門) 5 名(岸和田剛、藤沢崇、莊村知章、若松務、北島浩司)

ヨット部 2 名(長島俊介、山田寛)

自動車部 5 名(監督・泉敬史、吉田英雄、辛島正穂、井上篤、鳥取聖史)

四谷部弓道部 6 名(井上卓、志津木健、竹下啓、内田浩、奥山訓子、野田航介)

鹿又理(競走部)、渡部充(競走部)、田口典子(洋弓部)、上村隆一郎(四谷部弓道部)

3月29日 航空部創立60周年記念祝賀会新橋航空会館にて開催。「積雲」第15号刊行。

5月27日 水泳部合宿所竣工披露。同合宿所食堂にて小宴開催、鉄骨造地上2階建 延床面積496.98㎡(150.33坪) 1階 258.76㎡(78.27坪) 2階 238.22㎡(72.06坪)

5月27日 ゴルフ部練習場新部室棟竣工。

6月25日 ゴルフ部40周年記念祝賀会、帝国ホテルにて開催。

7月5日 庭球部創立90周年記念祝賀会青山ダイヤモンドホールにて開催。

7月20日 山中山荘合宿部員用業務用洗濯機・脱水機設置。白洋会寄贈。

8月31日 馬術部日吉馬場西側境界堀の改

修。

11月16日 バレーボール部創立60周年記念祝賀会を富国生命ビルにて開催。

平成 4 年(1992)

1月~2月 第16回冬季オリンピック大会(アルペールビル)、役員、選手4名参加。小野学(ジャンプコーチ)、畑山匡(スキー・フリースタイルコーチ)、亀岡寛治(スケート・ショートトラック監督)、宮部保範(スピードスケート)

3月14日 軟式庭球部合宿所竣工披露。軽量鉄骨造2階建。1階97.42㎡、2階100.10㎡、延197.52㎡。主な内容食堂、台所、和室8畳、6畳4室、4.5畳3室、洗面所、シャワー室。引き続き、軟式庭球部体育会昇格40周年祝賀会。日吉にて。

3月23日 小泉体育賞

競走部 5 名(大野貴明、鹿又理、安川智、川村佳正、油井卓也)

自動車部 4 名(力石尚武、松原孝慈、丸山訓男、吉村素)

航空部 3 名(廣瀬慶太郎、横井信也、小川哲)

矢上部少林寺拳法部 4 名(秋本綾子、飯塚友子、津布久道子、森智佳子)

若松幸司(野球部)、小檜山雅仁(野球部)、渡部充(競走部)、鹿又理(競走部)、白藤淳(馬術部)

端艇部10名(村田哲也、麻賀敏之、戸井啓介、古館治彦、今井学、森本直樹、真継清秀、渡辺摂、河端直道、鹿野正一)

端艇部 2 名(宮澤祐介、菊池蒙)

端艇部 2 名(畑岡孝子、藤井友子)

野球部27名(大久保秀昭、柳川信行、井上政継、中山博識、高橋季之、梅沢拓也、早野聡、佐々木雅彦、岡成一郎、河合彰紀、小檜山雅仁、若松幸司、赤池行平、中西仁、島藤力、玄葉幸栄、大串直人、印出順彦、古葉隆明、奥山丈、石井一行、山田将史、宇佐美尊之、西田知之、伊藤竜一、井深有、吉田剛)

ヨット部20名(伊藤宏樹、青木治彦、大槻光彦、内田誠、石川光輝、鍋木崇雄、石黒克司、石井一嘉、奥井裕介、鍵富真一、竹越健一郎、高井宏介、千葉直、早川誠人、中林正任、長島俊介、山下賢二、齋藤誠二、山田寛、槐島実)

自動車部 4 名(力石尚武、丸山訓

体育会略年表

男、政友毅、松原孝慈)

洋弓部3名(田中昭志、原淳二、河手建治)

四谷部弓道部7名(志津木健、井上卓、竹下啓、内田浩、田中宝、野田航介、荒木幸仁)

小島和子(端艇部)、山岸祐(水泳部)、大川達哉(ホッケー部)、阿部理(バスケットボール部)、高橋喜一(重量挙げ部)、田口典子(洋弓部)

体育会準会員組織

慶應義塾体育会は慶應義塾が経営する高等学校以上の学校(通信教育課程を除く)に在籍する学生・生徒の入部者を正会員としている。

しかし、体育会の使命は競技選手を育てるだけでなく、広く塾生の運動、競技を奨励・指導することもそのひとつに課せられている。

この「体育の奨励」の一環として、体育会に以下のような準会員組織を認めて活動を行わせている。

その準会員組織はひとつは医学部、理工学部といった単科の大学の対校競技会に参加するために独自に活動を行うと同時に、それぞれの学部一般学生の体育奨励と指導を行う組織である。そしてもうひとつは、塾内で各種スポーツのチームを作り、お互いに塾内で競技会を行うために組織した「塾内対抗競技部」から発展した「体育会所属団体」である。

また所属団体のなか、体育会の「部」(現在38部)にない種目を「新種目団体」と称し、この新種目団体の実績が高く評価された場合には「部」に昇格させ、学生は体育会正会員となる。

体育会が現在認定している準会員組織は次の通りである。

〈単科系組織〉

四谷部……医学部の各競技団体(24団体)

アメリカンフットボール部 空手道部 弓道部 競走部 剣道部 硬式庭球部 硬式野球部 ゴルフ部 サッカー部 山岳部 蹴球部 自動車部 柔道部 水泳部 スキー部 スケート部 卓球部 端艇部 軟式庭球部 馬術部 バスケットボール部 バドミントン部 バレーボール部 ヨット部

矢上部……理工学部の各競技団体(19団体)

アメリカンフットボール部 剣道部 硬式庭球部 硬式野球部 ゴルフ部 サッカー部 山岳部 少林寺拳法部 柔道部 水泳部 スキー部 卓球部 端艇部 軟式庭球部 軟式野球部 バスケットボール部 バレーボール部 ヨット部 ラグビー部

〈所属団体〉

丘の上硬式野球部 ケーニツヒ硬式野球倶楽部 硬式野球部エマノン パトリック倶楽部(硬式野球) JSKSラグビー・フットボールクラブ BYBラグビークラブ ディモンズ倶楽部(スキー) ホワイトベア・アイスホッケークラブ 拳法会